

飼料用作物を畑作物の輪作に組み入れ、 粗飼料を安定的に供給 農事組合法人 雄馬別(おまべつ)農場(芽室町)



経費縮減と省力化を目指す雄馬別農場(事務所と看板)

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 芽室町雄馬別地区は、昭和45年に24戸の農家が所在していたが、その後、平成12年には9戸、27年には5戸と、地域の農家数の維持に危機感があった。
- ◆ 法人設立前は1戸当たり70ha程度の規模で作付けが行われていたが、家族経営の限界、国際化が進む中での経営改革が必要と感じた。
- ◆ 平成27年4月、作業の効率化と機械の集約化によるコスト削減を図り、経営の合理化を目的として、畑作農家3戸、酪農家1戸による農事組合法人雄馬別農場を設立した。
- ◆ 畑作部門と畜産部門を独立させ、従業員を各部門に専任化することで、より専門的な知識を習得しながら作業を進めている。また、大型機械の導入、作業受託も進めている。

—【取り組む際に生じた課題と対応方法】—

◇ 経費の縮減と省力化

⇒ 設立当初は法人を構成する各農家が作物ごとの農作業機械を所有していたが、大型機械を導入して所有している機械の台数を減らし、経費を縮減するとともに、作業の効率化を図った。



大型機械による「ばれいしょ」の収穫作業

【組織等の概要】

- 代表者：土屋 貴宏
- 所在地：北海道河西郡芽室町雄馬別12線20-8
- 連絡先TEL：0155-66-2552
- 従事者：理事4名、従業員7名、事務員1名、アルバイト4名
- 経営内容：畑作、酪農の複合経営
- 飼養頭数(令和5年7月現在)：340頭(育成牛含む)
- 出荷乳量(令和2年)：約1,800トン
- 経営規模
畑作物～185ha(小麦、てん菜、ばれいしょ、大豆、小豆、ほか)
デントコーン～47ha、牧草地～63ha

【取組の成果】

- **連作障害の回避**
畑作部門では連作障害を避けるための輪作体系に、飼料用作物を組み入れることで完全5年輪作(小麦→てん菜→ばれいしょ→豆類→デントコーン→小麦)を実現した。
- **堆肥の有効利用**
5輪作の間に堆肥を2回施肥することで、地力が増進した。
- **牛の飼養管理に専念**
専任化から飼養頭数を増やすことができ、疾病の防止と乳質の改善につながった。



牧草の収穫風景

【今後の展望】

- 粗飼料の投与を安定させ、牛にストレスを与えずに飼養し、疾病を減らしながら、乳質を向上させる。
- 畑作・畜産それぞれの部門を継続することで専門性を活かし、作業工程のルーティン化と雇用の安定を実現する。
- 大型農業機械による作業の更なる効率化と省力化、コストの低減を図る。